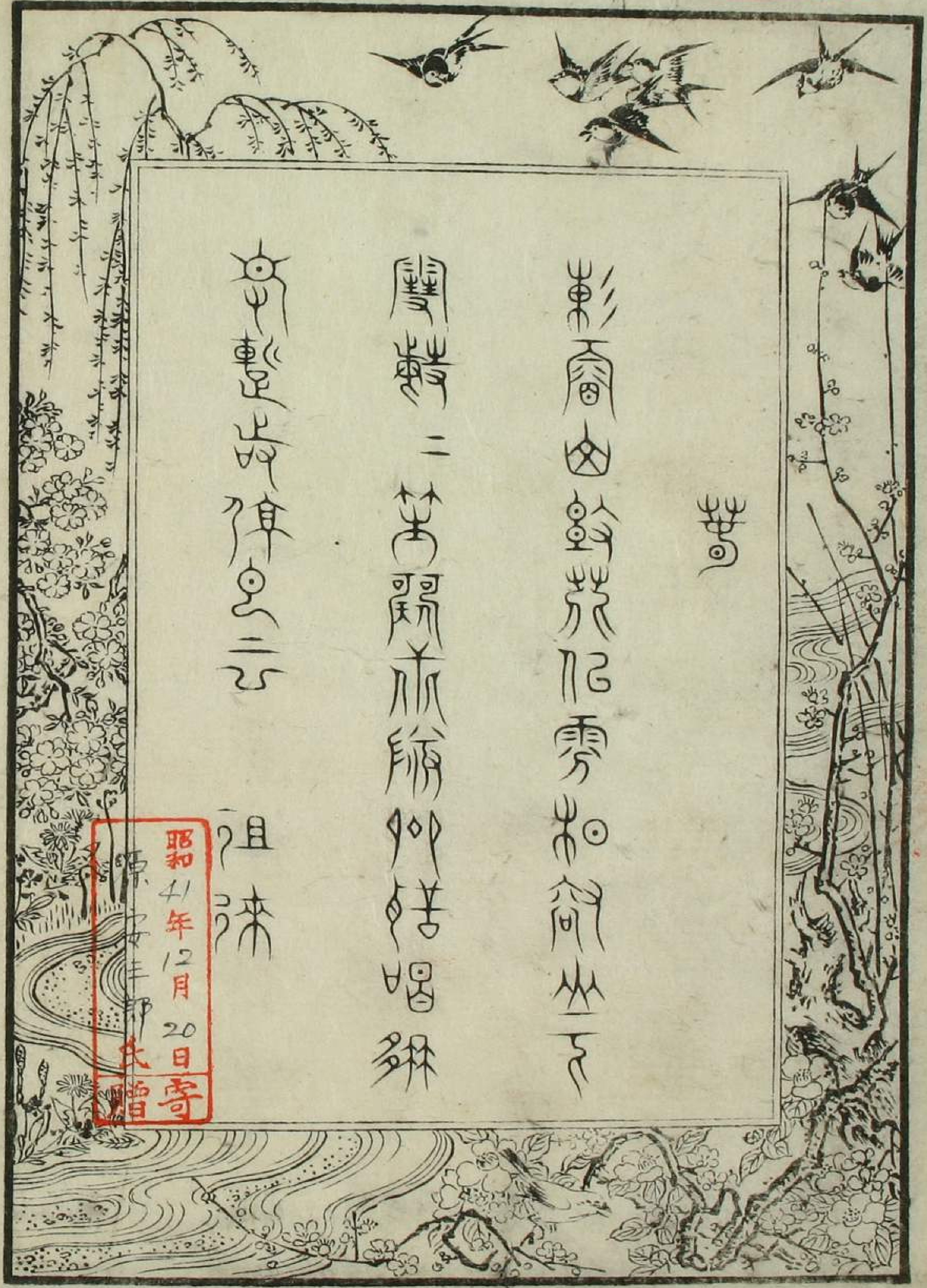
東都歳事記　春上

ル 4
5102
1

門 ル4
號 5102
巻 1



昭和41年12月20日 寄贈

41- 9293

齋藤幸成校家庭遺書之餘更著輯江戸年中行事四卷較諸向時坊刻數種之詳細可想已幸成之所爲亦洵肖其前人矣今化國日長垂髫戴白日歡月樂是古玩花賞

月之地賽神歎佛之場雖在
都人士紛奔繁會日不暇給
矧千里踸踔逆旅數月所觀
其佳麗窺之廣大者乎乃
挟是册東探西討窮其脚力
所至亦無可以恨哉余嘗撰
三餐一覽爲煙霞作導引
故於是輯欣然落筆不覺
其言之無端也天保壬辰至
月冠山老人題

米華三亥書

邨嘉平刻

東都歳事記序

欲窮千里目者。必登高丘而望焉。於是眼界豁然。雲散烟靡。一淡一濃。如遠如近。有鬱乎者焉。青眞乎者焉。有如練而映者焉。有如虹而臥者焉。青綦峙者焉。

有蟻散者焉。唯憾依稀茫洋不可名狀焉。及其進步於絕頂。假遠鏡以望之。鬱乎者奇也。真乎者山也。如練而暎者川也。如虹而臥者橋也。綦峙蟻散者城市也。宮觀也。人馬往來也。嚮依稀茫洋者。今皆昭昭歷歷毫末可辨。錙銖如掇。是何也。假遠鏡之助也。蓋世之欲探勝境縱奇觀者。足未蹈其地。目未觀其事。而徒聞人說話。以爲遺興慰心止具。譬猶望千里不假遠鏡。亦安

得與范洋之憾乎。輦街長齋藤月岑。風流閑雅。好探都下勝境。神祭佛會。及閭閻之俗。花鳥雪月之候。記之畫之。編成四冊。名曰東都歳事記。嗚乎此書一出。使彼徒聞說話。以遣興慰之者。

得昭代歴代。毫末于彝。錙銖始掇。則亦可以當千里之遠鏡哉。徃者其先人。作江戸名所圖會二十冊。如其山川起落之沿革。禓祠佛刹之緣起。無不畢備。而至祭會之式。閭閻之俗普。則畧

矣是月岑所以著此書之意而
余斯謂其功殆有倍焉以何言
也在於百世之後慕於百世之
前欲興廢繼絶者必取徵於此
然則非直悅人之耳目也其功
之偉可以知矣余常以此稱之

今也將鐫布齋而乞序余叟撿
之圖乙正位陶陰改容精確著
明有加於他日余撫手歎曰甚
矣其所爲肖於其先人世如此
而後可無復遺憾矣卽錄其常
所稱之言以爲之序

天保丙申孟春

荊山日尾瑜撰并書

提要

○凡此編ハ毎歳江府にあらゆる神社の祭祀仏院の法会等より
其餘歳時の俗事にいたるまで近郊序に随ひ是を輯録し其郊絶境の
人をして東都歳事の繁多なるをしらしめんとほつすれバ
加ふるに雪月花の名ある佳境を以てし将郊外といへども江城（エド）
より歩を運ぶの勝区ハもれなく記して探訪の一助とす
○御営の御規式もいとかしこく市人の伺ひ知るべきにあらざれバ其儀の
出るに擬て僅に一端を載て闕略を補ふのみ
○宮祠寺院の来由并に祭会の規式流例等の如きハ総て父祖の
著せる名所図会に載るが故にあらましを注して紙数（カミカズ）を
減しぬ日時に随て捜索に便ならしむ
○末社の祭礼支院の法会并外境内神仏の会日等も繁多なれバ
是勝計（カゾヘアグル）に遑あらず故に其偉なるをのミ抜萃し瑣細の

行事ハすべて略せ

○神佛の開帳（カイチヤウ）并ニ縁日詣ハ除月並の行事ハ正月の部ニ収め圏中（カコミノウチ）
毎月の二字を標して是を別つ

○甲子（カツシ）を始め行ふの類も毎月朔日の次へ誌し京物ホの如き時日
の定りさるものも日次の後ニ出せ京摘の内名花繍地ホ一挙乃
畫すものハ得さるハ校閲（オホムネ）を顕して后人の補遺を俟つのミ

○花街（ヨシハラ）雑劇（シバヰ）の年例ハ繁多ニして悉く誌しかたきによつて是大略を
挙く農るのニあつてハ却て載る事なし江都と題し且接説とまと
まるをいふなり

○神社も院の冨興行も文政以来年々ニ倍して数十ヶ所となり
頗る江府の盛事たりといへとも各年限ある故ニ時々改るものと
行ふをもつて此編ニ漏せ

○諸芸もの耳目ニふるゝ従類し加ふるといへとも敢て穿鑿ニ及ハす
又目撃する所といへとも繁きは厭ひ十ニして七八を省り

○此編毎条自ら経歴して紀法遊ニ行ひ又ハ往同き従ニ尋て
記せしといへとも見ル事ふるさるものは精跡繁茂多しかれは
もの有といへとも劇職にして悉く校正するのいとまなし元より窮
區壹隅ニ保り寸るのミにして達識の眸端ニ依ふへきさりかから
さるハまた従ふとし止まぬ漏るゝを他日見ル随て増益すへし
読むものは労易をとりて杜撰の疵を以て棄るゝとなくハ納幸甚しからん

天保壬辰初冬穀旦

東都神田
齋藤月岑識

附言

江戸年中行事を輯め誌るものハ元禄二年開板の江戸惣鹿子三の巻より以前にも見えたり 後江戸砂子拾遺 享保廿年板 江戸総鹿子 延享二年板

江戸名物志 此書ハ大成の年中行事を記し加へたり延享年中板 増補惣鹿子名所大全 寛延二年板

武蔵志料 昭和撰写本 増補年中行事 中本一冊 文化板 等にも載るといへども

全備のものなし依而今数件を増益して此書を編輯したりと

いへども遺漏訛りなくよく本を足して好古の刪潤を待つのみ

写本にも東都年中東遊紀あり又一枚摺の年中行事神仏参詣紀縁日

略記花暦の類諸家の花様にも多し或人云享世流行するところの花をとこ

も安永中俳人松露庵香碑にあるもの載せる東都四時記録としてへるなど一枚すり

小冊なりしとて或ハ花信風ともいふなる一枚ものも見えたり採録なるべし

江戸歳事記巻之壹 春之部

正月

元日 ○御一門方御譜代御大名衆御禮 装束長袴 卯半刻出仕 諸番役人方出仕登城

○諸家年禮 商家にて八二日より出る元日ハ戸を閉たり ○今朝若水を汲む今日より三日迄雑煮餅を食し大服とのと屠蘇酒を祝ふ [illegible]

棚を錺く今日より六日迄を松の内と云

○深川洲崎芝高輪品川海濱神田の社地ホにて日の出を拝むる輩

今暁七時より群集せり 「海をし初日のもと八江戸の春 鳥酔」「芝浦や車の上の初霞 起波」「江戸向ぬ帆八あるかり春の風 蓼太」

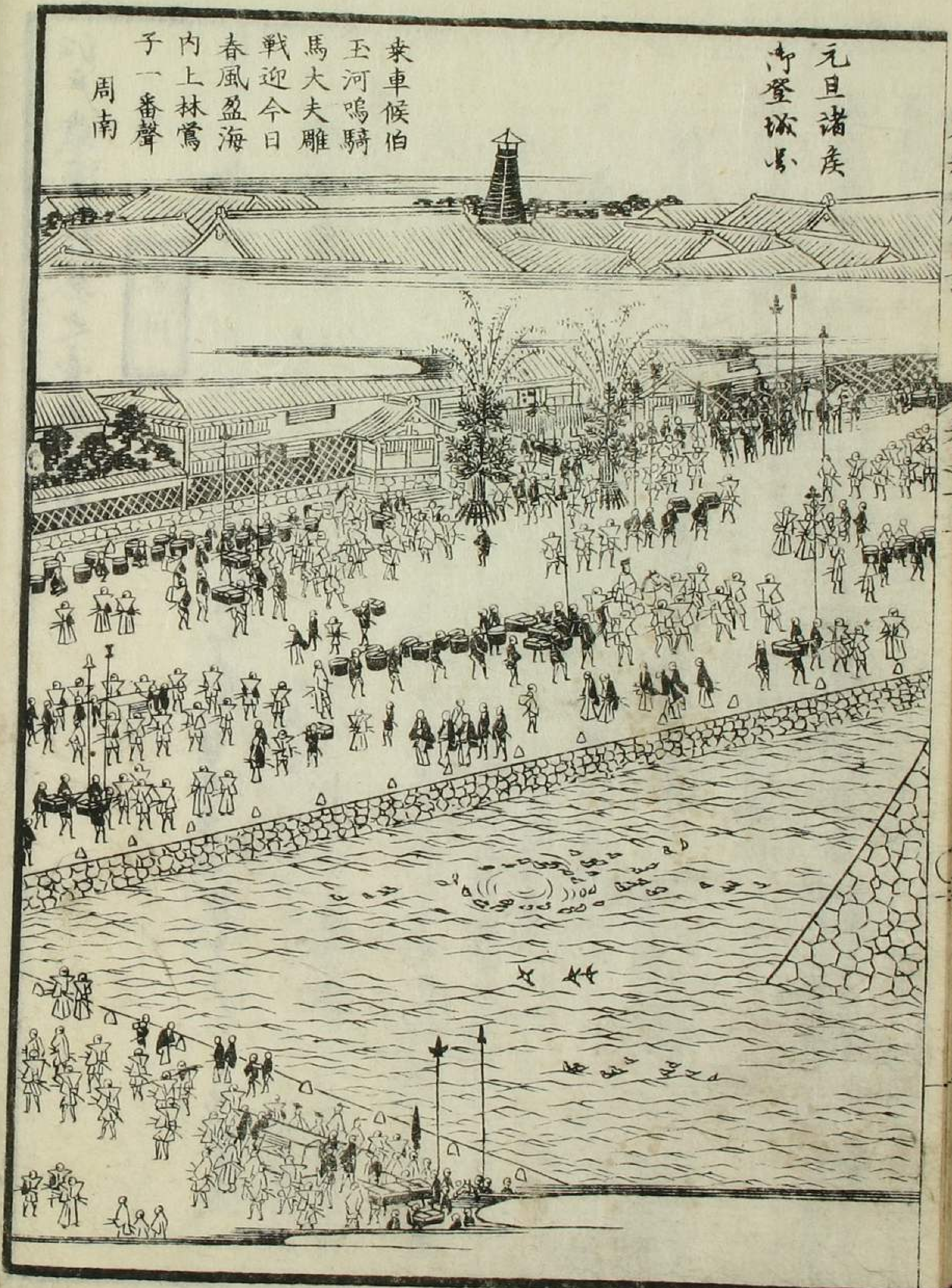
(毎月) 産土神参 毎月朔日十五日廿八日の三日 子八もうち参る神々参も 神田社 芝神明宮 深川八幡宮 市谷

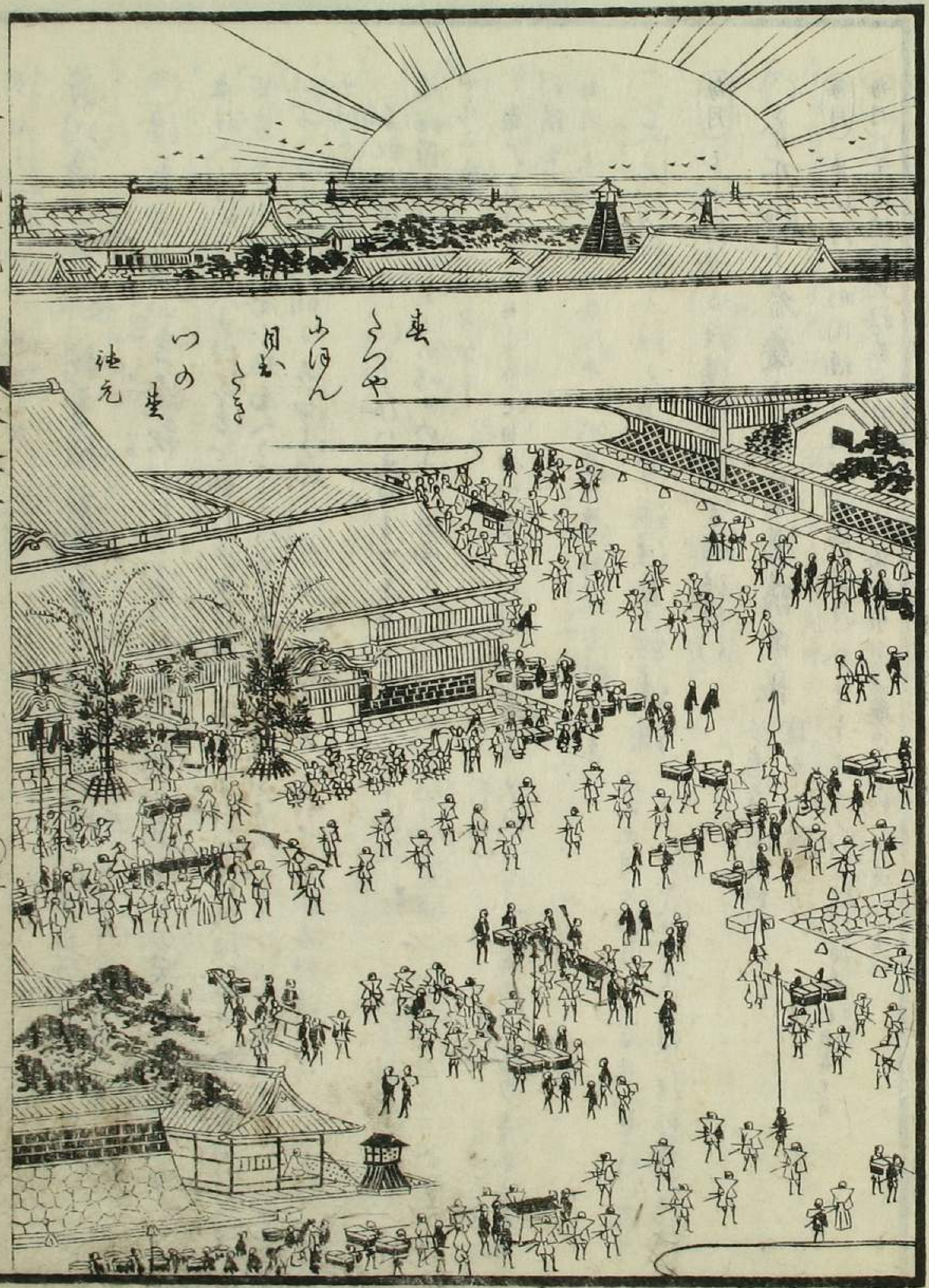
八幡宮 此外ホ八幡宮其余諸神社参詣多し 元日ハ諸社神位あり又当月中神楽奉納て縁日のいふなし

深川洲崎稲荷社 毎月朔日十五日 廿八日参詣多し ○恵方参諸社

(毎月) 妙見参 朔日十五日縁日なり 廿八日にも参詣あり 本所柳島法性寺 毎月子巻陀羅尼修行正五九月ハ開帳あり月毎ホ参詣群集ス同所

降臨日参詣正月七日二月八日三月三日四月四日五月五日六月七日七月七日八月十五日九月九日十月


元旦諸侯
御登城之図
来車候伯
玉河鳴騎
馬大夫雕
戦迎今日
春風盈海
内上林鶯
子一番聲
周南



廿一日十一月七日十二月廿七日

深川浄心寺 開帳 新高越安靜寺 彩衣浄門町 寺余法花寺院妙見と安置する事なし

○浅草寺修正会 除夜(オホミソカ)より正月六日に至る迄七日の間毎夜(オニヤラヒ)儺あり

庭燎六人寺子二人出仕す堂を勤む夕七時より宝前に於て読経唄散華あり後庭燎三人装束のまゝ鬼面を着る者入をさして出る又童人牛杖をもちて是を追ひ鉾(ヅシ)と号るもの三匹ありけるを又太鼓札棚よりおとす ○今日巳刻宝前にて大般若転読寺僧十二人出仕これを勤む

○東叡山中堂のおにやらひハ元日より七日迄毎夕八つ半時修行あり一山衆徒の十二組とりまき後銅(ド)鑼太鼓螺(ホラ)貝木の鳴ものにて鬼面をつけたる僧を追ひ中門を閉してより修行あり惣て庶人ハ見ることなし

○亀戸天満宮今日より七日の間子供の祈併をなす大(タイ)札をうけ七日の斎(モイミ)あり産(ウブ)子安全の祈祷あり

毎月 赤坂溜池の辺松平和州侯の藩邸若宮(ヤキウ)稲荷参

○文地(ウケヂ)村秋葉社大護摩供法華経読誦 正五九月の朔日十五日廿八日に修行毎月一日十五日廿八日并十八日護摩供法花経読誦

毎月 本所羅漢寺羅漢供養梁皇懺(セン)法修行

○本所押上春慶寺普賢菩薩開帳 子巻普賢品執行 摂中行儀あり

毎月 牛込横寺町円福寺祖師開帳 毎月 谷中本光寺人形(ミシヅ)の祈祷日 朔日并十一日廿一日

毎月 王子権現大般若 毎月 三味線堀松平下総侯の屋敷に一同連社書院

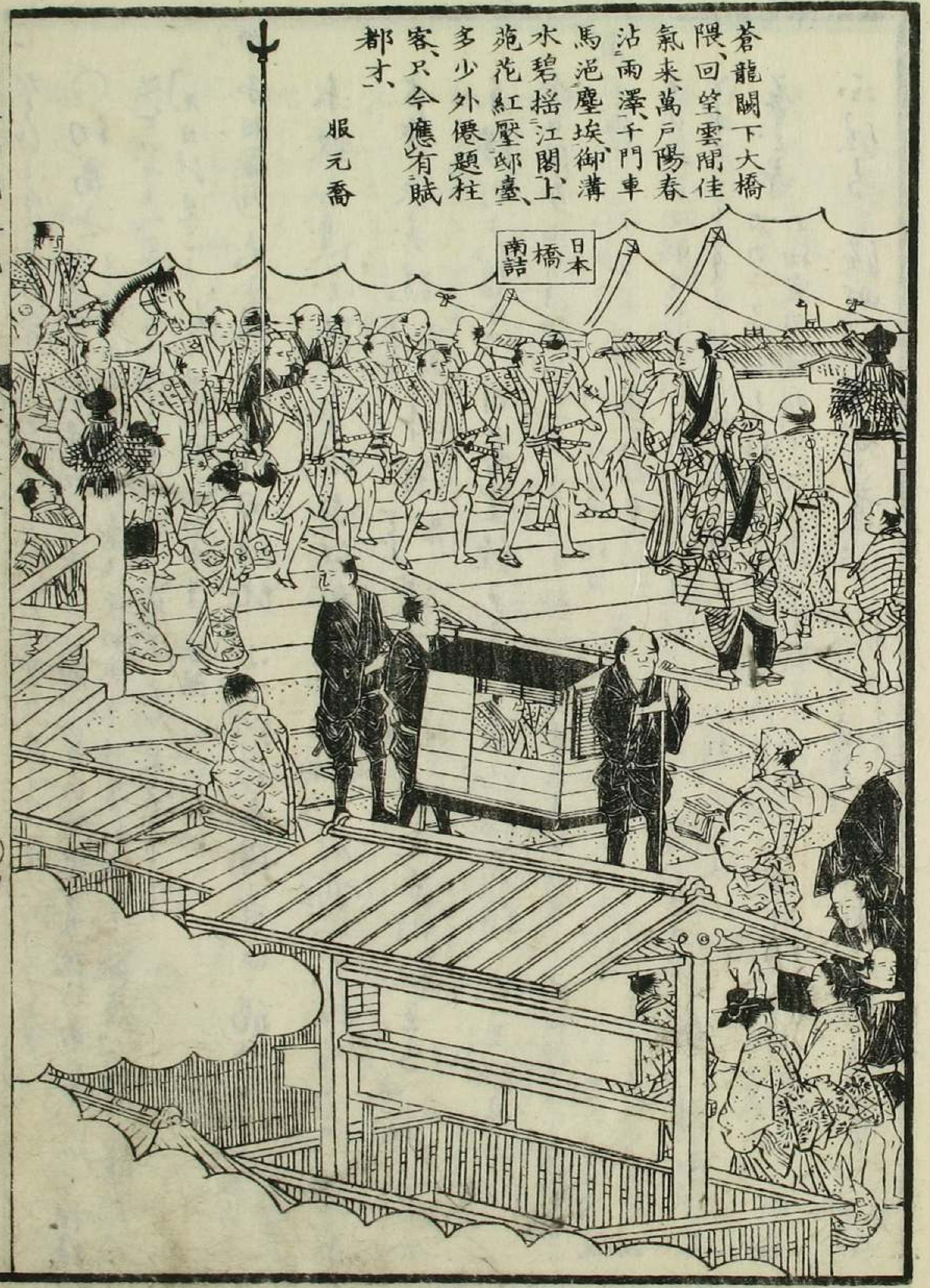
○三座歌舞妓芝居初興行式三番翁渡し 堺町中村勘三郎座 葺屋町市村羽左衛門座 木挽町森田勘弥座

今日寅の刻三番叟翁終りて狂言とて座中の俳優麻上下を着し又優少年(ワカシユ)大勢舞台に居ならびて正本の座頭(カシラ)の寿をのべ次に添る古風な勇踊を演て後又座の者とら立て初春狂言の標目(ダイモク)名題(ナダイ)を呼て座元立より扇を開き千秋楽をうたふ是を舞の年例とす

○三河万歳今日より当月中家々を巡る 道中双六 白酒売出る 今明日宝船の絵売出る是を返る大黒舞ハ旧江戸砂子木中に出れと今はなし但吉原中ばかり残れり芭蕉堂ハ笹を手山の手のし売出る ○太神楽 当日より毎日来る

東都歳事考に云江戸太神楽といふものハ元来伊勢外宮の御師にて獅子とて一頭にくびおく男獅子女獅子児獅子の獅子頭あり是を正月十日彼太夫家に奉納す是に侍る左の獅子を舞なり此種類として獅子を舞し出行を太神楽といふ同様江戸にも下向して俳徊す是伊勢流のあらく之又尾張熱田の地にも右志うしの一種ありて是も獅子を舞し出行を太神楽といふ一族江戸に下向して俳徊す是とあかて流に倣て江戸太神楽ハ右二流なり外乃手法なしとみり又元禄二年編輯のむらし物語といへる草紙に云七八十年以前寛文ほとの頃八太神宮御祓太神楽とて毎日々々江戸中徘徊しありく祓先後式申しにて本宮と真紅めんとうやりひるい行を出自小袴を帯幣を持立て何十ばかりの男子らくしく踊りやうなとうも世話を帯白袴を着中啓の扇を持右のもらてる行を持又三番目にて麻上下を着しくる男弟子を持又白嘱目にて布衣の装束着ける男沢子に是付くる者持ちてるものけめしく立てよく幣を立獅子の頭を着し中に大太鼓小太鼓一方なり以後ま年を立て持ハ四人かつふく持ちる烏帽子を白ててう是引きや一方も左右に付笛小太鼓つゝとどひまうし小倉せる時右の中らくうありたる獅子神楽を舞たへしまに拍手もすまり勇に去べしくてかんまへ廻るまたりと内の他よ人の暮に為たうけ大太鼓をおもひなしと立ちうかりさちをぬけ是をなす

初春路上圖
芳雲集　書民従
くもらぬ世に住民の
いく千町
縁人る春の
松たてる門
実陵云
金餅


蒼龍闕下大橋隈、回望雲間佳氣来、萬戸陽春沾雨澤、千門車馬浥塵埃、御溝水碧揺江閣、上苑花紅壓邸臺、多少外僊題柱客、只今應有賦都才、
服元喬
日本橋南詰

だらけとするなり人其事に入べからずと云々今は此辺すでに変じていにしへのさまを失へり

○初冨士　東都京橋の最初なる歟されば江戸の中央日本橋のあたりを以て佳境とするなり又浅草御蔵前のあたりを除き両国より眺望は深川万年橋乃辺をいふ人冨士見る図とよびならはしたる冨士を見るによし

「元日に見るやおもせむ冨士のやま　宗祇

甲子日（毎月）大黒神参　神田社地　小石川伝通院寺中福聚院　開帳あり参詣群集す

東叡山護国院　本所亀沢町大黒院　開帳　麻布一本松大法寺　同　浅草

寺中長寿院　出世大黒　下谷どぶ店蓮光寺　開帳　牛込原町経王寺　同　駒込追分

東横町大恩寺　日暮里経王寺　青山仙寿院　同立法寺

寅日（毎月）毘沙門参　別して正月初寅　諸人群集す　芝金杉二丁目正伝寺　御手洗（トウミン）を商ふ

今日俗家にも此神を祭り　二またの大根　小豆飯　黒豆などを供す

寅の日詣の輩　芝神明宮の門前にてひうち石を求め　正五九月の寅日開帳あり参詣の諸人初

と求めしむ事あり　今日詣人へむかで小判を与ふ　牛込神楽坂上

善国寺　右の二ヶ所とも詣人多く詣る人也　正五九月の初寅開帳あり云あれば中寅に詣り　谷中天王寺　大般若修法　山谷

正法寺　須田町秋元家の藩邸　東の門の下に鎮座す　深川南番場蓮長寺　開帳

下谷盛泰（ジヤウ）寺　開帳　同所新寺町玉泉寺　正五九月子参　陀羅尼開帳　矢倉本覚寺　三田

龍源寺　開帳　四谷南寺町本性寺　正五九月初寅開帳　同御門外　麹町十丁目　麻布広尾天現寺

正五九月の初子日を開帳放生会百万遍大般若修行あり　二本榎知将院　木挽町七丁目河岸通り

卯日（毎月）亀戸妙義参　天満宮の境内にあり　毎月卯の日を縁日とす　正月は初卯詣と号し参詣多く東は本所より割下水浅草大川橋より柳島の太子

参りに詣づ又二の卯三の卯も是に同じ　詣人神符を受て繭玉を買て髪に挿て帰る　その日は亀戸

とし五彩の糸にて繭玉（マヰダマ）を柳につけ　繭玉と号け売る又天保二卯年より卯杖卯槌と鬻く

（毎月）聖天宮参　待乳（マツチ）山　縁日は廿日卯酉あり日参百度参あり　詣人絶ず参詣

の者大根を供す毎月参る正五九月末の浴油供あり

牛込高田馬場南蔵院　本所平井　卯酉廿日　薬研堀埋立地（タテチ）　卯酉十八日

不忍池　卯酉十六日　浅草寺中荒沢堂弁財天　三田寺町仏乗院　卯酉十六日　谷中明王院　卯酉廿日　同感応寺

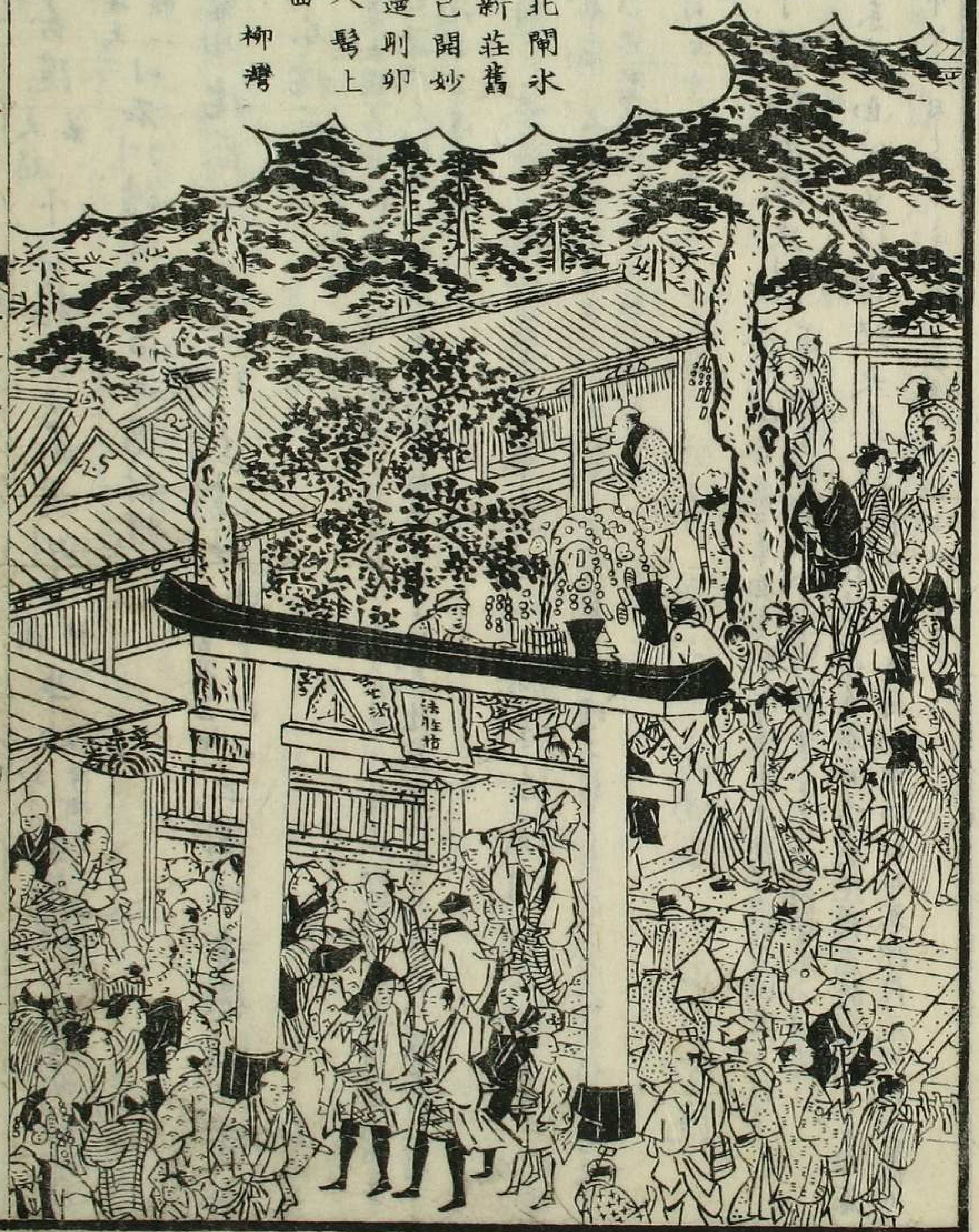
卯廿日　酉を余程多し

己巳待（年中）弁天参　下谷忍ケ岡（シノブ）　別当生池院　今称本堂　参詣の諸人群をなす　増上寺山内　芝　蓮池

本所一ツ目　辨縁　深川氷代寺　同冬木庭中　洲崎吉祥寺　本所石原

弁天小路　徳光弁天　浅草寺内　老女弁天　本坊後弁天宝蔵院　浅草池の好音寺　開帳　橋場

初卯の日
亀戸妙義参



南閘北閘氷
方解新荘舊
荘梅已開妙
義祠邊別卯
日遊人髻上
挿符囮

柳灣

後楽院 大般若 下谷龍泉寺町同断 開帳 牛込わら店町 南蔵院 三田寺町 綱坂院

旭弁天 開帳 小石川伝通院寺中昌林院

午日 毎月 稲荷参 王子社 烏森(マツサキ)社 神宝具并を拝せしむ 三囲(ミメグリ)社 妻恋社 市谷

茶木稲荷 護摩

浅草太郎稲荷 午ノ日参 三ノ日 赤坂太田屋鋪下屋しき 豊川稲荷参 廿二日 ○毎月月頭の午の日 溜池上 松平大和侯屋しき 江川鍛冶のうしろ 咲(サキ)ミう稲荷参 其外江戸ハ稲荷の社殊多し

く記すに遑あらず

初申日 ○永田馬場山王宮法華三昧(サンマイ) ○浅草寺境内山王宮開扉(ヒラキト) 辰上刻 唄

散花(サンゲ)三問一答(ダウ) 宛衆徒六人并子二人旅社頭にまいり神楽を勤む 社壇に於て衆徒大山徒追伐の弓矢を

取ひ悪魔降伏の矢を放つ事あり

庚申日 年中 庚申参 高輪光照寺 愛宕下真福寺 入谷喜宝院

八丁堀松屋橋東詰 今日供養をなし青面金剛をまつり又庚申待の酒宴を催す

或ハ炒(イリ)豆を食し女子縫針の業をとどめ御灯(ミアカシ)をつける

同 東葛西柴又村帝釈天参詣 題経寺にあり 今日千巻陀羅尼修行 板本尊開扉

庚申を縁日とするは本尊出現の日なるによれり 其外毎月初申の日百巻陀羅尼修行開扉あり

酉日 毎月 鷲大明神参 卯の日に同じ

寅日 毎月 摩利支天参 上野町徳大寺 毎月開帳 正月初寅に千巻陀羅尼修行あり 其外開帳 諸中あり

深川猿江日先社 寅の日ごとに開帳あり 雑司ケ谷玄浄院摩利支天開帳 正月九月に千巻陀羅尼修行

二日 ○国主城主 装束 諸御役人方御礼登城 八ツ時 江戸出羽町の町人御礼 ○船乗初

○商家ハ今日賀棧(ミセ)を記し售(ハジメ)を鬻め年礼市中に出る家々市中賑ひて辟人御礼に多し

○亀戸天満宮裏白(ウラジロ)連歌会 八句の連歌を俵米に書て奉る 練帷表そのより裏白といふ古例あり

○吉原遊女年礼 今日より仕着小袖を揃へ着て仲の町へ出る ありこれは往来を常とす

里諺に道中(ダウチウ)といふ 三日より八朔まで 一様の衣裳にて出る 紙衣(カミコ)をとる 年礼は赤の

しうりし当月中大黒舞の社をまつる 里の門松ハ各家の方を向けて立るを中ならぬしと

せり 又正月ハ妓家ごとく庭火を焚事旧例なり この里ハ四時繁花なりといへども正月ハことさらに

賑しく其の群集登城之間もなし 高齢ちかぞ記 其往に来る其の姓女名田揚屋の門を

と添わく「尭まつ見そ子待日の拝ひなり

○人形芝居初興行 堺町薩摩座 葺屋町結城座

三日 ○諸御大名方の御嫡子方御礼登城 八ツ半目長袴辰の刻出仕 其外江戸町人京大坂奈良堺伏見町人御礼を勤む

先例よりて献上物あり

○今夜御謡初（ウタヒゾメ）　熨斗目長袴にて酉の刻出仕御譜代御大名衆より御謡囃勤之あり　大手御門桜田御門にて御篝（カヾリ）あり諸侯大名方登城　四座の猿楽大広間の御板縁に並居て老松東北高砂三番をうたふ此時諸侯より観世太夫へ肩衣（カタギヌ）を下賜る古き佳例なりとぞ

○愛宕権現地主神毘沙門天祭事　今日午半刻鐘楼にて三度鐘を突くを相図とし毘沙門の使と称するもの素袍（スハウ）を着し袴の裾高くとり昆布にて造りたる兜に歯朶（ウラジロ）を以て前立ものとしを除注連飾乃具ゆく様ひくるを着し七尺餘りの太刀を佩き擂木（スリキ）を以て副佩とし右の手に大なる杓子を杖につき徒者を従ひて本社より石坂をくだり別当円福寺に入る円福寺より院主并に寺中のものとも此席をつくりて先をまつ扨毘沙門の使此席へ出て二間餘りの大俎（マナイタ）を据置其上に向ひて杓子にて突き鳴らし寺中へ強飯の饗あり事終りて又石坂を登り本社へ入ること旧例なり

○上野護国院大黒天参　大黒天の宝前へ備ふる所の餅を湯に浸して参詣の諸人にあたふるを大こくの湯又御符（ゴフ）の湯といふ是を飲ば福智を得るといへり

（毎月）元三大師参　東叡山　毎月といへども正五九月は別して諸人多く参る所の大師橋より南に植木並に諸商人市をなせり毎月三日は慈恵大師御影を掛まつらる民部卿法眼の筆なり又十八日は向ひあひの御影とて探幽の筆なり則慈恵大師慈眼大師両像向ひあふ形に画り

浅草砂利場誠心院　白金猿町宝塔寺　雑司ヶ谷の境内なり東叡山同筆の画影なりといふ毎月開帳あり

小石川光岳寺元三大師参（毎月）愛宕下加藤家脇坂侯不動参（毎月）下谷茅町宗賢寺毘沙門開帳題目講

○江戸名所記云寛文二年板　本郷川浄光寺古しへより元三の餅をそ本堂の仏前にて乾焼とする時しもまさと誦ずむ人おほし今ハなしと云り

四日（毎月）日本橋西河岸地蔵参

○商家并に市中店卸（タナオロシ）とて代物（シロ）を改め旧年の勘定を為ぬ多く此日を用ゆるなり　なれども此の日に定るにあらず家々のならはしによれり

八日○浅草寺三社権現法楽　巳刻三網一臈并衆徒六人男子三人是を勤む　流鏑馬（ヤブサメ）あり　午刻社人本社中より観衲袢　弓を奏し後麻上下を着したる者府西に鬼といふ文字を書きし的を竹の先へ付たるを持て鬼の前（ゼン）近き鬼に出立たる者是に添ひて出る社人該る中く鬼を追ひ本堂を巡りて本堂の東方より始めて天地四方へ矢六筋を放つ諸人此矢を拾ひてまもりとす但弓矢ハまたの稲荷へ返し仮初につかはしむなり

同社牛王加持　巳刻衆徒修行　十一日迄牛王宝印本堂にて諸人に与ふ　柳の枝へ挿むきたる柳の牛王といふ

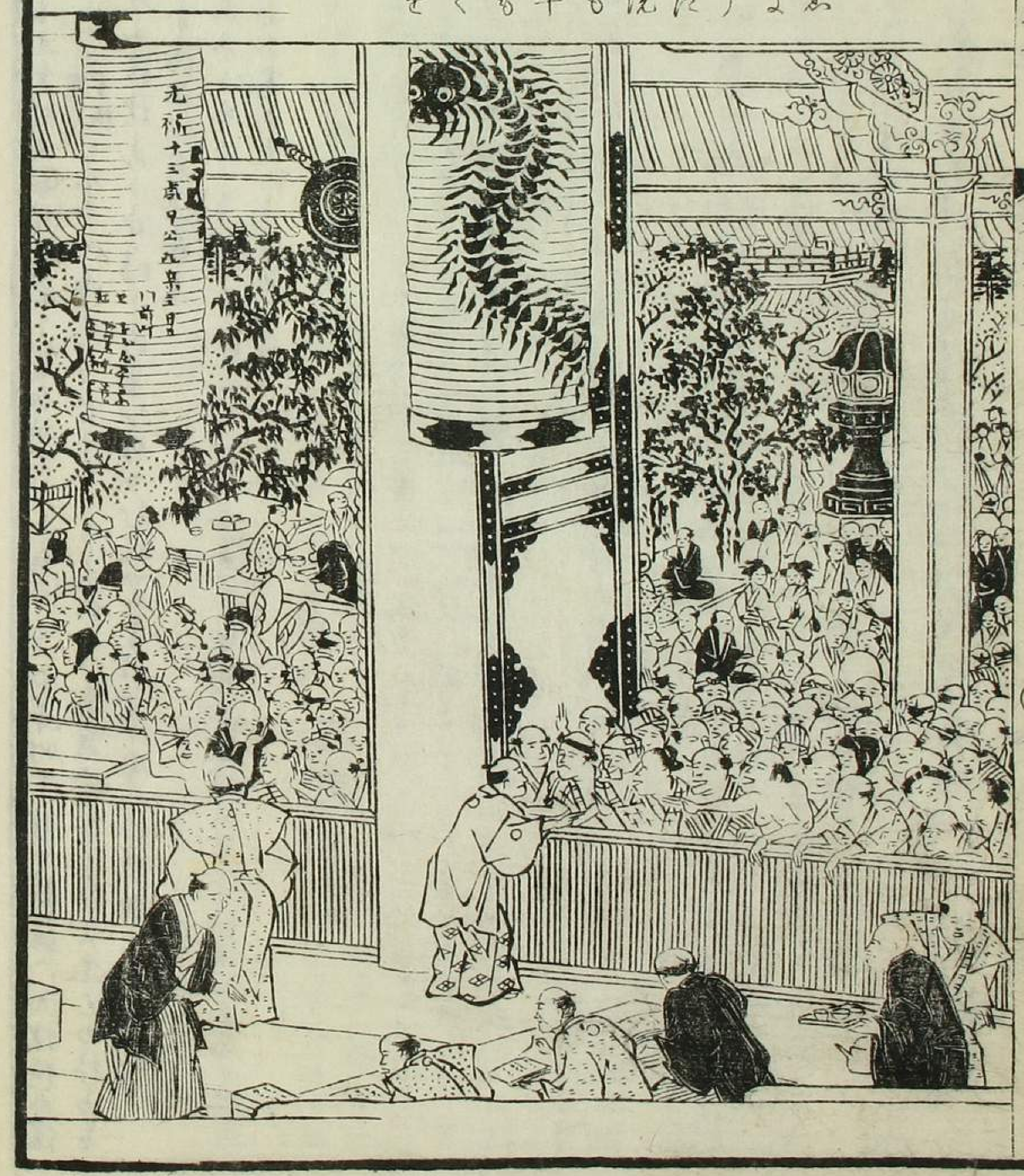
（毎月）赤羽有馬家鎮守水天宮参詣　世に尼御前と称もの詳ならず此宮は古よりかやらせ給ふて毎月五日は朝より夕まで諸人男女陸續として絶ず諸人祈誓を凝らすなかんづく此宮は安産を守らせ玉ふの故都下に是を信ずるもの多し諸人小き旗（ノボリ）を捧て椿花を画る額を納む

（毎月）牛込光照寺祖師開帳

六日○江戸並に遠国の社僧徒社人山伏御礼登城　五ツ時　先規によりて献上物あり

谷中天王寺
富の圖

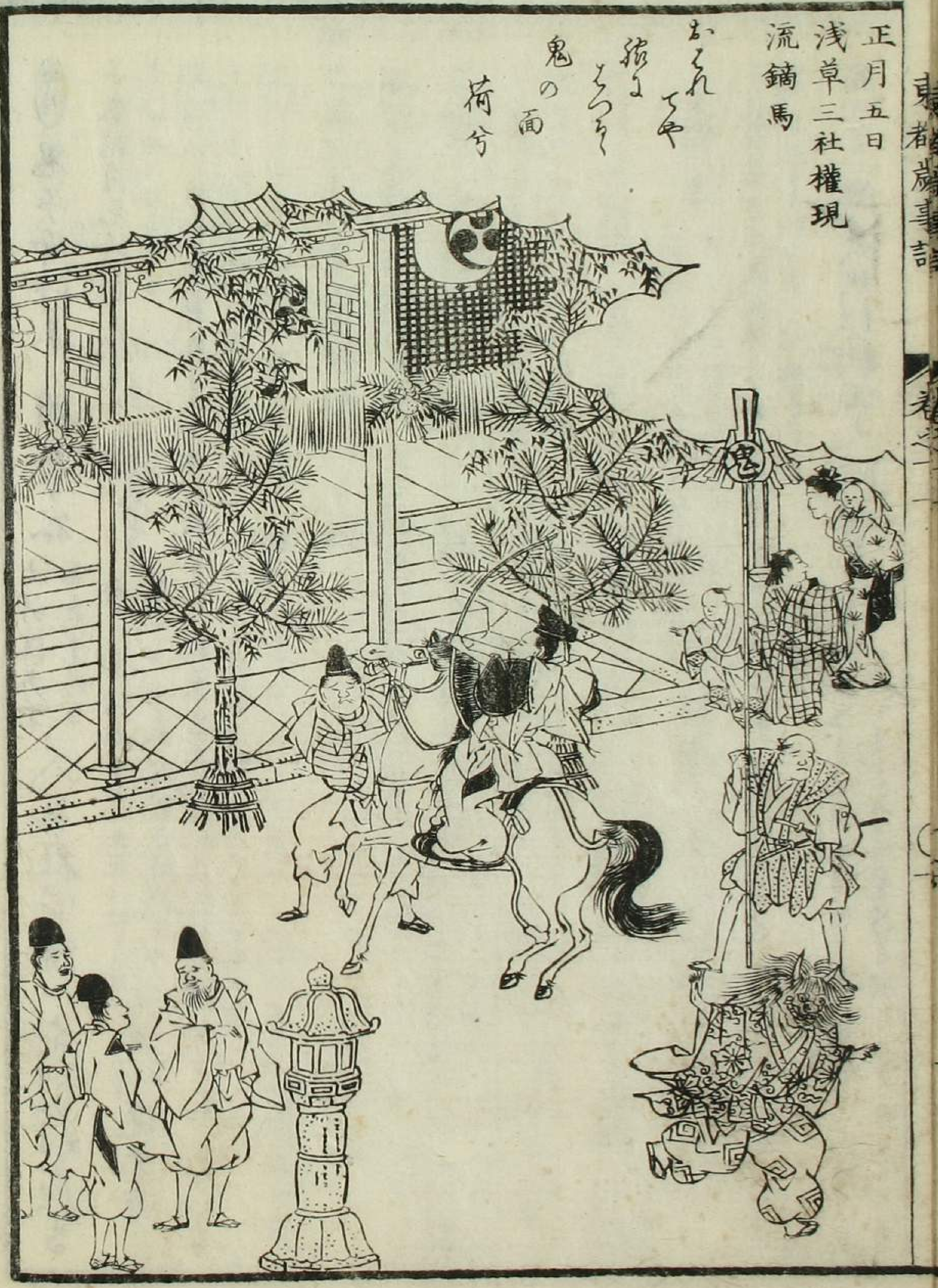
湯嶋天満宮目黒不動尊ならびに當寺の富は昔より其名高し今御府内に富興行の寺院數多新なりといへども其詳を略て浮華に流れて記さんも無益なるべしよつて本文に除きて此一圖を加へて闕るを
補ふ



○良賤年越と称して今夕門松をとり納む　六日年越　菜店の収まへ八十八日に納め　しとめり十五日八十八日に爆
行ありしも土地によりて今御し　厄払来る
○産土神参（ウブスナ）　今朝七種菜をとゝのふ
毎月 神田三崎町毘沙門参　十六日廿六日も詣り　夕方より縁え
毎月 四谷新宿正受院脱衣婆参（ダツエバ）　百万遍修行　十六日廿六日も参詣あり
七日 ○若菜　人日　御祝儀　諸侯御登城　今朝七種菜粥（ナヽクサ ナガユ）を食す
○亀戸天満宮若菜祭　神供（ミケ）に若菜を供へて奉る　十六日にも粥を献る
○王子権現牛王加持　牛王宝印をとりて坊中の児子押手祈り福寿草を配る
毎月 本所羅漢寺らかん供養　毎月 是崖修越参　并に湯尾峠孫嫡子社参詣
八日 毎月 薬師参　茅場町　別当知泉院　当所あたりに参詣多し　縁日毎に夕方より商人多く又盆栽（ハチウヱ）の草木庭木など売る事夥し　殊に坂本町の辺より楓川まで縁日毎に商人出て南所を売る
本郷四丁目真光寺　浅草新堀端東漸寺　本所二ツ目弥勒寺　川上やくし　正五九月開帳
本所番場多田（タヾ）のやくし　木下川浄光寺　愛宕下真福寺　麹町八丁目
宮やくし　毎月十二日大般若　四谷北寺町真福寺　初日やくし　伊皿子福昌寺　目黒
成就院　蛸薬師　本郷町六丁目法岸　新井村梅照院　毎月　小日向大日坂妙足院大日参

毎月 鬼子母神参　雑司ヶ谷　大行院持　百度参多し　入谷真源院　本所出村本仏寺
子巻陀羅尼修行　同 目黒正覚寺　廿八日にも子巻陀羅尼修行あり　正五九月八日十八日　三田三丁目 蓮乗寺
毎月 今日疱瘡麻疹（ハウサウ ハシカ）まじなひの小児として浅草寺山門の金剛神（ニワウ）の脛（スネ）にくゝらしむ如く
すれは疱瘡麻疹かろしとて此日船の内を振りて糯の図に入るゝ事とせり
毎月 本所五ツ目羅漢寺中央大日如来縁日　正五九月の八日に開扉あり　毎月 芝金地院羅漢供養
九日 毎月 浅草寺毘沙門参詣
毎月 若宮湊稲荷金毘羅参　神田紺屋町代地　同冬木町ちん守参
十日 毎月 金毘羅参　虎御門外京極家に鎮座　此祠の事世に隠れなき霊験をきこし召し縁日より群集して参詣を作
くを鄙よりもまうづる人多し　植木其外諸商人市をなせり　安宅薬研堀（ヤゲンホリ）　参詣群集し諸商人　夕方よりいづる　下谷生駒（イコマ）家に鎮座
深川黒江町　小石川御門内高松家に鎮座　十日　九日　白金高松家に鎮座　同 目黒
高幢寺　毎月十日大般若正五九月十月の　麻布二本木京極家に下屋敷
十日十二座神楽奏す　其外浅草高内観智院　本所一ツ目弁天の内稲荷安置　永代橋三ツ又稲荷内木野家　東都金毘羅百社参詣ありといふべし
毎月 六郷矢口村新田（ニッタ）大明神参詣　境内にて小き矢を授与す　之をもって魔除とす

○小石川氷川社廿五座神楽（毎月）永田馬場安藝家大儀式来廿五日にも奏請とゆふさる
○高田神利場村氷川祭奉射の式あり村中悦豊を祈る古雅なる神事なり
十一日○御具足の祝 御鏡開（カヾミヒラキ）諸家同じ　昔は廿日を用ひ来りしが廿日と刃柄（ハツカ）と別
同じ刃柄と称へるの人俗説あり国忌なるにより
よりて慶安五年兼葭と正月より改定しは羅山文集に見えたり其ききていまだものなるさ具足の祝 道座
○御連歌会　御当家にて殊に古き御式礼なるよし　温知秘鑑
其のかみより来由はまぎれなく世に漏たり
○浅草寺修正（テウハシン）今暁七ッ半時外陣において棒渠
例年の法職人旧例の式をなす
○下谷稲荷二十八座神楽湯花奥行又月九月も行り
○商家賃買帳（ダイフクチヤウ）を綴（ト）ぢ始ひしれを祝ふ　続勝をもて飾る　とる事し祝ふ
（毎月）神田鍋町あんどん来夕方より
十二日○浅草寺温座陀羅尼（ウンザダラニ）開白　天下泰平国家安全の御祈祷なり今日より十八日まで七昼夜の間本堂の中左の方不動尊の前にて
壇を構へ幔（マク）をめぐらして一百六十八温座の秘法修行あり
（毎月）薬師参八日に同じ　○新井村梅照院薬師開帳　四月八日又月九月十二日も開帳あり
○上野中堂大般若読誦今日辰の刻一山勤仕にて修行出張和尚にて大般若の札を出す
十二日（毎月）祖師参　法花宗　堀の内妙法寺　今日并正月九月の十三日は開帳あり又は
並開帳の様中々あり商人繁昌の寺院にして
夜その緇素晴雨を厭はず日毎にも参詣群集して夜は法筵を備ふるなど又毎日百度参り



こゝにては手拈ひの風車を商ふの土産とす

池上本門寺 雑司ヶ谷法明寺 下谷長遠寺(どぶちやうをん) 正五九月開帳 深川寺町浄心寺 開帳

大塚本伝寺 毎月朔日十三日開ちやう 牛込横寺町円福寺 十二日十三日開帳 高田本松寺 新造祖師

浅草矢嶋本覚寺 朔日六日十三日十六日廿一日廿六日開帳 小石川表町本久寺 開帳 谷中善光寺坂下

本妙寺 開帳 赤坂今井谷円通寺 青山立法寺 開ちやう 十二日十三日

毛氈此寺より進物として綿百把一を奉る而已 ○雑司谷宝城寺祖師 正五九月内陣あり

○深川森下町神明宮祭礼 出ぐはしやの式ありて手踊ぢくにて今日大般若を誦し放生会執行ふ 十二日より来緒あり 猿江泉養寺 持あり

○王子金輪寺十八講 あり 強飯(がうはん)の 毎月 小石川養頤寺虚空蔵参 毎月 牛込田松下町不動堂

毎月 若宮紀州家にて弁才天参詣 下小沢村诸社にて参詣の参詣を請人小石川へ毎月三八の日を定日とす 但し正月三日八日三月十三日七月十三日十二月廿八日八休日なりといふ 当社の別当森巌寺の開山清誉上人腰痛の患ある故紀州淡嶋明神に祈願し其中に霊示ありて此法を授り本社を移して当社を建立すと云 ○深川三十三間堂弓矢を射る 毎月八日定らる

十四日○良縁年越を祝ふ 十四日年こしと云 家々注連を取払ひ軒端門に箸へ削掛(けづりかけ)を下る 削かけ八廿日より前に収む 世俗廿日の風にあてざる也 又産土神社へ詣でる 太神楽来る

○亀戸村道祖神祭(だうそじん) 此辺の小児大勢群り紙製の宝船を作りて其大きさ四尺程又は紙にて五色の幣をたて其上の方へ紙の御幣を結びつけ いにしへ宝船の二字を縁起の幟を立同音に千艘万艘の宝の来るを祝ひて近来でもどんどといふ 是は往昔の左義長の神事の名残にて家々に持出し初穂を乞ふ 又商家の前に立て あさげのあかつきに 道祖神小児の日待をいとなむ 此事久敷すたれて今は其形ばかり残れり ○亀戸香取社疫神除祭 毎月 深川浄心寺上行菩薩今日並十八日 毎月 日本橋南河岸地蔵参 毎月 同上 浅草霊明神神楽 正五九月八湯花執行

十五日○上元御祝儀貴賤今朝小豆粥を食ふ 太神楽来る

毎月 産太神(うつたのかみ) 朔日も同し 毎月 妙見参 朔日も同し 柳嶋法性寺 毎月子巻陀羅尼要文 九月十六日開帳あり

彩色紙安置する子巻だらに内陣 深川浄心寺開帳 ○白金妙円寺妙見堂参

○山谷正法寺毘沙門参千巻陀羅尼開帳 毎月 浅草福井町銀杏八幡宮放生会

○今戸八幡宮放生会 毎月 長巌院? 猿楽町中に孫ちやくし参七日の如し

○牛込原町長昌寺 大神宮子巻陀羅尼 正月九月十六日 毎月 本所羅漢寺大般若修行

毎月 目黒祐天寺別時念仏 毎月 青山善光寺放生会 毎月 西ノ久保鎮林広寺神楽

毎月 小石川表町本念寺祖師開帳 ○音羽町田中八幡神楽 ○浅草明神神楽

○三芝居狂言初日 今日より三月節句前迄を二番目と呼ぶ 今日より其後を又春狂言といふ 毎年芝居総方がらりの仕組なり 八番目までを三番目 宝暦の頃は是も古式を伝ふ八番見せ同じ 初狂言の盛り八

三月三日より八日迄 ... 五月五日迄 六月夏用休を節とし 七月十六日より盆狂言 八月朔日より十一月の

新見世に参り其の外ともに多くて大入の時ハ囲ひ桟敷を引続て興行する事あり

十六日 ○亀戸天満宮大御食調進 年の始の神事 社司祝詞を奏す 次に越天楽を奏し 魚鳥 菜蔬菓子くさぐさ物など十七台の供物献備有て別当家

文を読む 終りて神楽殿にて神楽あり 卯の日の御渡初ある時ハ余日に行ふ

○浅草報恩寺にて開山の木像へ鯉魚を供す 此鯉魚を調理し諸人に与ふ 赤飯非時を出す 当寺ハ開山性信

坊下総国飯沼にありし時 波地の天満宮示現の奇瑞あり 是例によりて毎年飯沼より池の鯉二喉つゝ

送る 此返礼として法膳を送る 此法膳と天満宮へ献し 其日初連歌の時 是をとりてかへすと旧例とぞ

○湯嶋麟祥院にて従二位春日局 仁淵了義大姉 の堂開扉 木像を拝せしむ

○小日向服部坂龍興寺にて法華経の文字を以て画る五百羅漢并に釋

迦文殊普賢観音等五十余幅の画軸を掲る 幅毎に十人陪侍の者ハ粉本へかくのは 山園岩壑泉池草木禽獣に至まで

一句一画纖にして綫の如く微にして塵の如し 是を経文を連ねて悉くもの／＼を図し並

之を施したるも亦又経文なり 凡妙経一部余巻を以て書きる所にして 府中の小吏加茂氏養京

信清といへる人の筆なり 此人ハ寛保十九寅年 江城に誕生し 長するに及んて 法務を勤め

続くし 深方に周旋して手技を試む 又丹書を好んて 狩野玉燕に学び 壮年より専ら官に仕へ

元より名利に志なくして 家を継がん事を願ひ 則ち 離髪して 自ら梅麻亭と号す 天明

の頃 此五百羅漢の像を画んと発起し 寛政八年に至て 成就し 爰に納む 文化七

年 七十七にして 老病に罹り 歿せし 其翌年 是を先に光栄南谿大典禅師ゟ題跋

住天啓和尚に代りて 其顛末を記せしむる 今当寺に納め置く 計富に 禅師の記文あり

絶妙なりとて名高し
こゝに略す

○閻魔参　世にいふえんまの斎日といふ　浅草新堀長延寺　閻魔丈六倶生神作　脱衣婆立像　同大圓寺十王堂

浅草寺奥山　並脱衣婆在世　遠病者祈願す　同寺中正智院　寮　釈迦堂内　浅草誓願寺中西光院

上野清水観音堂内　下谷広小路光楽院　下谷坂本善養寺　十王

下谷金杉世尊寺　並六えんま　湯島圓満寺　並脱衣婆　本郷六丁目法真寺内

本銀町四丁目観音内　並脱衣婆　茅場町薬師境内　深川寺町法禅院　十王倶生神作　脱衣婆

同霊巌寺中閻善院　並脱衣婆　同八幡宮境内　釈迦堂の内　本所回向院　並脱衣婆在　高野釈迦の

堂く十王像地獄の画幅を掛る　同霊山寺　同法恩寺中大教院　同小割下水花厳寺（ケゴン）

同所羅漢寺　三匝堂の内　芝増上寺山内　蓮池の向ふ　倶生神在　同花岳院地蔵堂内

芝金地院　石像長頭の像なり　並業の鏡を抱く　西久保天徳寺中随養院　木像　栄立院　石像

麻布一本松長傳寺　石像　六本木崇巌寺　十王並脱衣婆　同息不動堂境内　地蔵堂内　並脱衣婆

同延安養院　十王　脱衣婆　渋谷長谷寺　釈迦堂内　三田寺町実相寺境内

同四町同春林寺　釈迦堂　高輪如来寺　本堂内　南品川長徳寺　牛込

通寺町養善院　並脱衣婆　同原町松雲寺境内　小日向町　採木　還国寺　木像石像　並脱衣婆

同上水ばた日輪寺内　小石川富坂善雄寺　市谷柳町光徳院

市谷八幡宮境内　石坂右　同谷町地福院　薬王寺　雑司ヶ谷玄浄院中　法明寺

駒込小菊（オナキ）木縄手正行寺　並脱衣婆　同高町光源寺　大釈迦堂内　並脱衣婆　巣鴨真性寺　脱衣婆　十

王倶生神并赤の鬼浄玻利の鏡の　又罪人を業（ゴフ）のはかりに掛くる像在　谷中天王寺内瑞雲院　麹町八丁目栖岸院内

同九丁目心法寺　十王　像　平河天満宮社地　四谷内藤新宿太宗寺　丈六　坐像

同所裏通正受院　並脱衣婆　同南寺町真成院　釈迦堂内　沙干　中野成願寺　十王並

脱衣婆　赤坂一ツ木浄土寺　石像　同威徳寺内　同新町常修寺内

青山泰平観音境内　同教覚院　並脱衣婆　同善光寺境内　地蔵堂内

千住金蔵寺　同勝専寺　豊島川端総持院　(毎月)小石川下富坂町

源覚寺閻魔参　世俗蒟蒻閻魔と云

今日諸寺院地獄変相の画幅を掛る　本所押上大雲寺の閻魔廟　芝の光明寺八京師の画匠円山応挙の筆にして

て衆人を詣らしむ今日本堂に掲て拝せしむ　深川法禅寺ハ十王乃像地獄の

画幅十六羅漢の画像あり何れも　松原笑月六十二才の画あり其外仏画あり

谷中長安寺は地ごくの画幅掛る

○今日東叡山文殊楼　山内にあり文殊菩薩と千手観音を安置す　とも詣て諸人に拝せしむ　増上寺山門　十六羅漢を排列す　涅槃

堂山門　文殊菩薩を安置す　を開く諸人掛上りて登る事を許す　○深川永代寺山門十六羅漢　泉岳寺山門開らく泉岳寺

中に経文を入たる大曼荼羅并七十七の像あり　同寺深川本誓寺の内開らく

春臺文集　早春登増上寺楼

芝浦春風百尺楼　登臨宛是鳳麟洲　東南目極滄溟潤　唯見房陵水上浮

○吉原京町二丁目旭如来開帳　堀丸屋　某方寺

○雑司ケ谷鬼子母神参詣　中古まで八今日奉射の式ありしが近此まで

絶くなし今ハ法花経を読誦するのみ今日本尊開帳更衣あり

(毎月)聖天参詣日　大塚護国寺　十六日廿日　湯島天神下　同　四谷汐干観音内　聖天　正五九月　赤坂桐畑

出しに同　其外所々同日の縁日あり

(毎月)八丁堀地蔵太神宮参　参日毎月十六日　十六日廿一日　其外所々太神宮参

(毎月)南本所番場町河岸秋葉参　(毎月)葛西吾嬬権現縁日　今日并廿日

(毎月)牛込原町幸国寺布引祖師開帳　○川口善光寺阿弥陀開帳あり

○今日商家の奴婢やぶいりとて主人の暇を乞て宿に帰り父母兄弟に接し又ハ神仏に詣し

自在に逍遥す　貝原好古云やぶいりハ宿下の謂なるべし　同やぶいりや涅槃かけて芝の浦　琴風

同やぶいりやふりむくりと思へりけり　百之

十七日(毎月)芝増上寺安国殿御法楽　涅槃二社権現御相殿山法楽あり　同所

御堀端松平西福寺御宮参詣　数日十八日廿八日にも参詣を許し正五九月四月に執行あり

(毎月)観音参廿二日迄　七観音　其外　浅草寺　十七日より数日まで参詣ありて縁日なる　此時参詣すれば浅草門前毎日植木の市立つ

大塚護国寺　本銀町四丁目　七日の宮開帳あり　毎歳商人多く出る　麹町八丁目栖岸院　神楽坂

行元寺　大般若　青山泰平観音　正月十七日開帳あり　○湯島天満宮放生会　五月九月もあり

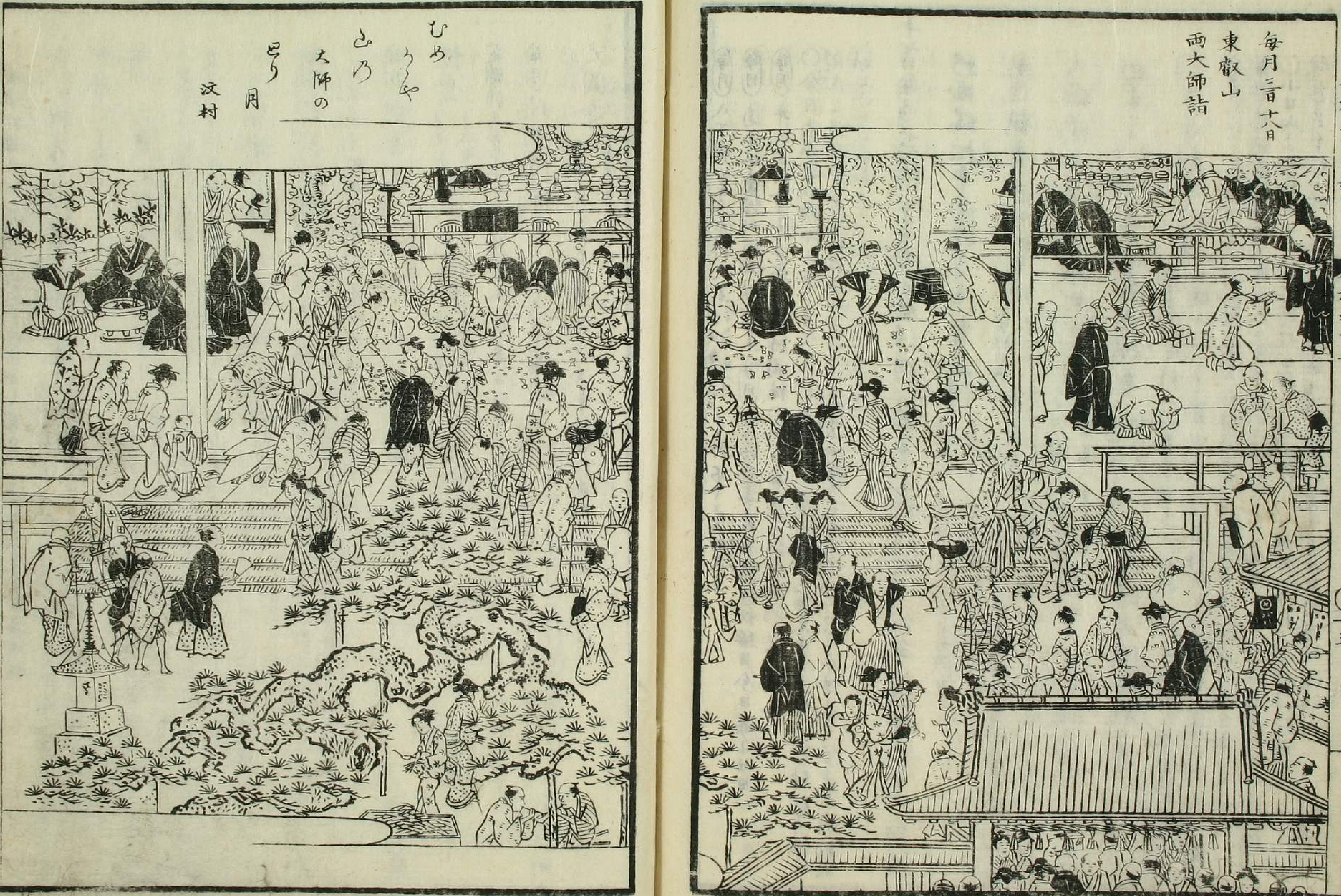
○王子村十八講　農家にて行ふ例年今輪番の住持を請じ酒飯を饗し農事をかたる　大焼小豆飯と云を製し各杵子杵をとりて

ちまきとすむ　(毎月)小川町三崎稲荷社神主七駄浄の行ひ廿二日迄　正徳元年より始る

(毎月)葵坂上湯嶋稲荷　八天宮参　正五九月　八幡参り　(毎月)二本榎廣岳院八天狗参　庭中にあり

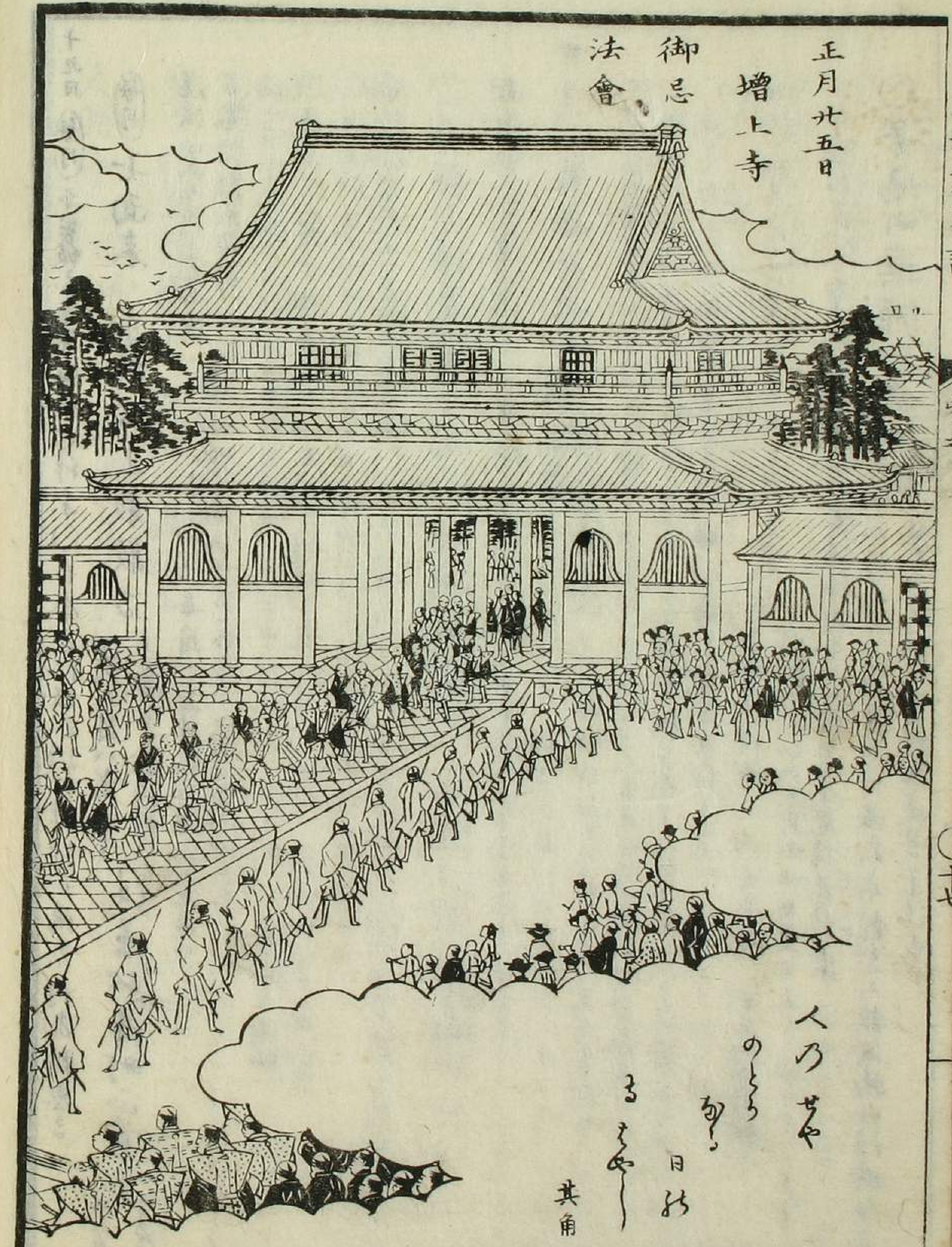
○小日向上水端氷川明神塔孔明神山伏あり　別当日輪寺　○麻布一本松氷川明神社神主

(毎月)芝金杉正伝寺題目講説法　(毎月)牛込原町恵光寺妙見宮開帳説法


むかうや
山乃
大師の
巴り
月
汶村
毎月三日 十八日
東叡山
両大師詣

○谷中妙福寺日親像開帳正五九月なり 毎月 同下谷安立寺日親像開帳
十八日 ○浅草寺法華(ホッケ)三昧(サンマイ)法会 卯刻本堂において修行あり大衆出仕今日温坐陀羅尼経読誦あり今宵松明を焼し供物等を奥山にて
焚捨ることあり
毎月 上野大師参 三日にも同し 此日慈恵大師の影掛まゐらせ解脱院宮の御筆なり
と尊ぶ 五代将軍憲廟子に世俗十八日は慈眼大師三日は元三大師と覚えたる人多し 慈眼大師は寛永二十年十月二日入寂ましませり元三大師は観音の應現なる故十八日をも詣づる事なるべし 云々 今日黒門前において余流高人市立あり
○大師粥(ガユ)と号して貴賤小豆(アヅキ)粥を食す 又十八日にも此元三大師へ供養のものなるべし
毎月 鬼子母神参 八日にも同し 雑司ヶ谷は正五九月に八葉巻陀羅尼修行あり○本所出村本仏寺は正五九月 下谷善立寺随求鬼子母神毎月内拝あり
○四谷南寺町戒行寺鬼子母神開帳正五九月の十八日秋八日なり
毎月 観音参 十七日の条下と合せ見るべし 芝金地院観音懺(センボウ)法 開扉あり観音二十二扉 三田魚籃(ギョラン)の画幅を拝させしむ
観音 十七日 十八日 上野清水堂 大般若読誦 本所六丁目数福寺 本所羅漢寺観音供養
芝浦清水山下寺々内観音参文政年間浦中出現黄金仏なり 毎月 縁起明神社大般若 麹町
毎月 秋葉権現参 文地村満願寺 正五九月十八日大般若読誦毎月十八日 小渡摩供修行法華経を読誦す
正五九月大般若読誦 毎月 浅草新堀端松院別時念仏説法
大円寺 参詣多し

十九日 毎月 下谷坂本小野照崎明神参○白金台氷川明神参湯花祈禱 報恩寺
毎月 七面参 本郷押上最教寺 正五九月八日より子巻ならびに修行 浅草新寺町正覚寺 廿二日まで
説法 正五九月十九日より 子巻陀羅尼修行 高田亮朝院 毎月十九日 子巻ならびに開帳説法あり
駒込追分光明寺十八日十九日両日縁起説法 谷中瑞林寺 正五九月八
○浅草たんぼ幸龍寺祖師柏原明神開帳子巻陀羅尼 正月五月九月 市谷 まんぢう 修行ある開帳
○浅草新寺町源空寺御忌廿五日まで修行説法あり廿五日の御忌にあり○橋場長昌寺七面宮参
毎月 深川浄心寺石釈迦開帳○大宮八幡宮祭正月九月もあり 毎月 四谷大龍寺釈迦参
○今秋大伝馬町壹丁目二丁目通旅籠町の往還に恵比寿(エビス)講の市立つ
南伝馬町恵比寿講の設けとて魚類菜蔬恵比寿大黒の像小宮法器類および
廿日 ○商家恵比寿講 恵比寿大黒二神を安し鯛魚の鮮けさを掛けて見るも万饒の利益貨殖を祈る 親戚知己をむかへて宴飲し又愚児の為に
小旅て蜜鑿器物にいたるまで價をたかく或八万両なども定め賞をなし商賈の体をなすもあり
○今日太神楽参る○本郷廿日正月とて雛(ヒナ)祭をなし終れば家毎に祝するもあり
○浅草寺内愛比寿開帳○亀戸香取太神宮太々神楽
毎月 聖天宮参 同月十六日と同し 谷中吉祥院 同長久院 小石川養願寺
三田寺町大聖寺聖天宮毎月大般若読誦あり○麻布廣尾稲荷神楽 諸乳山八正五九月の以日祭日山をかへ分て諸人参詣し
○茅場町薬師如来開帳 正月九月廿日もあり ○亀戸天満宮子年(チニコ)穀祭 五穀成就の祈禱なり 村農夫等参詣す


正月廿五日
増上寺
御忌
法會
人乃世や
のとかなる
日の
寺はやし
其角

初地空王闢
諸天梵帝家
經臺翻貝葉
香社結蓮華
鷲塔慈雲峻
雞園寶樹斜
遠公寧許飲
月渡雨谿賒
白石

廿一日 毎月 弘法大師参詣 所々 大師河原平間寺 正五九月は殊に賑し世に厄除大師と称して都鄙の男女厄年の者は必詣して除厄を祈る 大師自作の像毎月廿一日寺外一宇にて開帳あり
江戸より行程五里半あり 西新井総持寺 今廿一日より廿一日迄殊に賑ひ又彼岸中開帳あり
上総村蓮華寺 二本榎正覚院 高野学侶派 白金高野寺 高野行人派 三田寺町明王院 同 中埜宝仙寺 同 寺外数々あり 二月十日の件と並べし
○浅草寺門外第六天社神楽 正五九月も有 ○小石川白山社神楽 正五九月も奏楽あり
毎月 浅草山谷町本性寺秋山自雲霊神開帳 病疾を憂ふるもの祈るに必ず霊験ありと云 正五九月の廿日廿一日は千巻陀羅尼修行あり
毎月 本所田向院放生会 十月八日四日なり

廿二日 毎月 浅草寺前池田家鎮守瑜伽山権現参詣 今晩日 愛宕下池田家瑜伽山権現は廿二日廿四日之
毎月 赤坂御門外大岩庭の下屋敷赤川稲荷参 正五九月は大般若転読あり
毎月 浅草本法寺熊谷稲荷社千巻陀羅尼 ○同七軒町法恩寺熊谷稲荷開帳千巻ならびに
○谷中大円寺瘡守稲荷開帳千巻陀羅尼読経あり
○深川猿江妙寿寺稲荷開帳千巻陀羅尼 ○麻布六本木芋洗坂下朝日稲荷神楽

廿三日 毎月 浅草随身門前勢至参 放生会 正五九月は観音堂にて供養を修する 毎月 芝山泰平観音参
○赤坂新町当院勢至開帳 ○今晩日深川森尾神楽 深川に在 ○小塚原町延命寺瑜伽権現大般若もあり 正月五月九月
毎月 下総古間木村諏訪明神参を年都下より参詣多し ○小石川[illegible]今晩念仏説法

廿四日 ○今晩日亀戸天満宮鷽替の神事 参詣の人木をもつて鳥の如くの形を造り袖中にして互に取かへるの神事なり悪事を鷽に

して善事にかへるの謂なりと云ふ筑紫太宰府の旧例にならふて文政三年よりはじめらる

鷽の圖

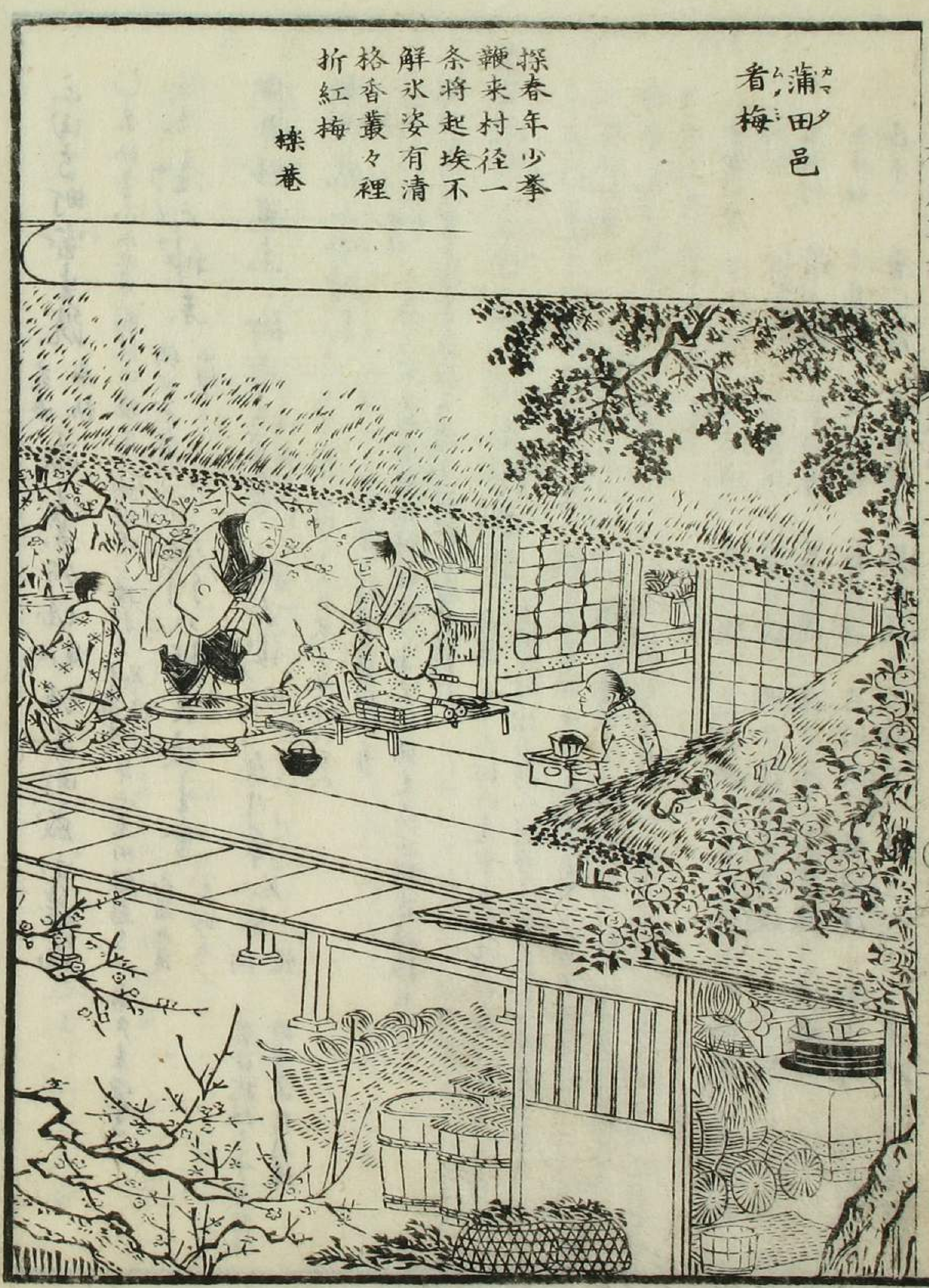
右木にて童子の作り大師伊勢太神宮へ参籠の時用ひし同宮にて大師
○今晩日入谷長松寺開月の丸圓光大師御影開帳 八幡の時月を詠し同宮にて大師の御影あらたなれし時自ら筆をとりて御姿を画かれしところなりといふ
毎月 地蔵参 芝愛宕権現社 毎月参詣群集す 同所下不動堂の内石像地蔵参 湯島霊雲寺
三田松秀寺 日限地蔵開帳あり 深川寺町本誓寺 霊験地蔵開帳 日本橋西河岸 夕方より参詣多し 放生会
又六地蔵参 南方四十八ケ所東方四十八ケ所の地蔵参あり 付録に記す
○浅草大川橋手前花川戸町角古物六地蔵の石地蔵念仏修行
毎月 本所押上春慶寺普賢菩薩参詣 正五九月廿四日八十部経転読 札ありて開帳あり
毎月 白金樹木谷覚林寺清正公参詣 正五九月は千巻陀羅尼修行あり
毎月 浅草くらん前幸龍寺清正公参 ○雑司ケ谷宝城寺千巻陀羅尼修行説法

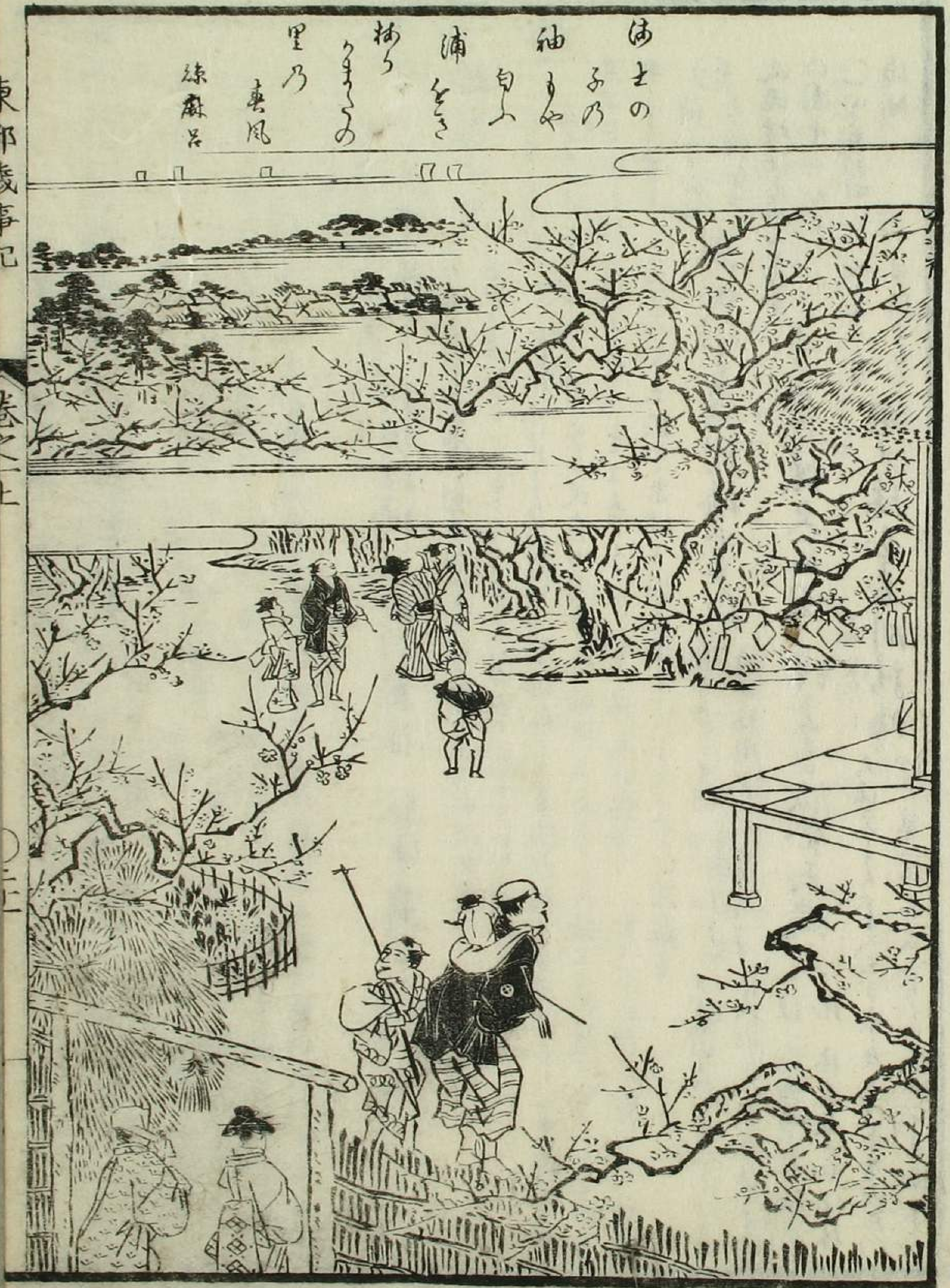
廿五日 毎月 天満宮参詣 湯島 参詣多し 諸商人出 植木の市あり 麹町平河社 同 亀戸 同 並連歌会 五ケ年来執行
かし義川師宝ふやまと名亦鎮守つくしと見ゆる 茅場 小石川 増上寺山内 茅野天神 飯倉天神
至る比より毎月縁日に連歌会あり 又至るせり
牛天神 毎月大般若 正五九月神楽
○白金樹木谷松久寺荒城天満宮 正五九月廿五日大般若 ○小石川表町天満宮神楽 正五九月にあり

○御忌（ギヨキ）法会　浄土宗開祖円光大師の忌によりて　芝増上寺　一山悉く出仕あり　源門
浄家の寺院皆今法会を行ふ　念仏おこたりなし
霊巌寺　本所霊山寺（リヤウセン）　浅草源空寺　十九日より修行あり　廿五日施餓鬼を行ふ
ふ円光大師直筆六字名号開眼あり
院を称せしむ毎月　廿五日大師開帳あり　同称往院　参詣群集す　東都円光大師廿五日
（毎月）深川浄心寺日朝上人参詣（毎月）麻布長坂町大長寺日朝上人像開帳
廿六日○本郷四丁目天満宮祭礼　別当喜光寺　○平河天満宮　天満宮に座神楽九月にあり　別当龍眼寺
○小石川牛天神北野神社今明日　○稲付村静勝寺　太田道灌入道木像開扉
（毎月）神田鍛冶町二丁目不動参夕方より縁日
（毎月）板橋日曜寺愛染参　四谷南寺町愛染院　下谷三味線堀大久保侯屋敷の内愛染参
（毎月）此辺染物を業とするもの紺屋（コウヤ）の家にてハことさら崇信するもの多し
○昔八代目田安の庭湊地洲に月輪をなし諸人群集して月の出を拝するよし　天和以来享保頃迄
の事なり今ハ七月のミなり
廿七日（毎月）神田松下町代地不動参夕方より縁日　愛宕下不動参今明日
廿八日（毎月）不動参　目黒瀧泉寺　正五九月ハ参詣多し　廿日頃より参詣群集し廿七日
廿八日の夜ハ夜もすがら縁日あり廿七日の朝より縁日あり
能業縁日と云座頭百度
参りあふりく諸人たゆることなし
法蔵院　開帳　清坂一心木像　同白銀長谷寺　同赤坂南谷寺　駒込　深川寺町
四谷新宿太宗寺　下谷通新町永久寺　開帳

三田寺町宝生院不動　荒浪山王稲荷開帳　坂本町成田旅宿
○不動尊正五九月開帳の場不　駒込追分願行寺　大山前不動　牛込原町報恩寺　亀戸東覚寺
（毎月）産土（ウブスナ）神参　縁日十七日　○深川八幡宮放生会　八月九月ともに行ふ
（毎月）妙見参　柳島法性寺　新堀町　深川浄心寺　開帳　芝伊皿子林寺中本松院　妙見宮毎月
（毎月）鬼子母神参　八日十八日も同じ　入谷鬼子母神八日　九月廿八日ハ巻陀羅尼修行あり
○荻新田（オギシンデン）辺村　上妙寺鬼子母神祭開帳（毎月）南本所法恩寺　小梅荒神縁日
（毎月）牛込岩戸町宝泉寺道了（ダウリヤウ）権現大般若修行
三十日（毎月）上野寛永寺大師宿坊遷坐（センザ）　毎月三十六坊の内此坊を輪番に遷坐し奉り毎月毎日
参詣の坊ハ近年甚しく賑ふ事を輪番とて
衆僧群集する事夥し　就中十月ハ例年此坊にて執事あり　三日の中より向谷の御影二幅
を探幽の筆にして四幅あり其日此院へ四幅の中向あひの御影二幅を奉じ遷して西面へ
掛奉り参詣の所謂三十六坊の名となしても桃灯をともして往来の女子の制の行ふべき定め
あり其坊ハ所謂三十六坊ハ

中堂の東	本覚院	凌雲院	見明院	真如院	青龍院	[illegible]院	東漸院
同西	寒松院	涼泉院	覚成院	明王院	元光院		
清水門	護国院	東円院	等覚院	養玉院	真覚院	円珠院	
谷中口	大慈院	津梁院	勧善院	春性院	為徳院	勧成院	林光院
山下	普門院	光照院	顕性院	明静院	修禅院	一乗院	維摩院


蒲田邑看梅
採春年少挙
鞭来村径一
条将起埃不
解氷姿有清
格香叢々裡
折紅梅
棣庵


海士の子乃
袖もや白ふ
浦をき
梅らうまゝの
里乃東風
緑麻呂

宝勝院　泉龍院　現龍院　寿昌院

日不定○七福神参　大黒神 寛永寺　神田社地武八幡 清水堂の傍　弁天 不忍池中　毘沙門 谷中天王寺

寿老人 同不忍裏 長安寺　布袋 日暮里　福禄寿 田畑 西行庵　武八寿老人と除くは亜大仏の吉祥天福へ詣るあり

又山の手七福神参り○毘沙門 二本榎 細川侯やしき内○布袋 白金瑞聖寺 天王殿○

寿老人○福禄寿 白金妙円寺 妙見堂の内○弁天 目黒蟠龍寺窟○恵比寿○大黒 目黒

不動尊境内

鶯○立春の十六七日目頃より初音を発す　神田社地　小石川鶯谷　谷中鶯谷　三崎の大要なる所より 西めぐりへ向る

根岸の里　里俗に呼ぶ東の鶯は鶯の数多く啼けるをもて此辺の鶯は 京の下鶯より一入まさるとて由古しへより云へり

梅○立春より廿六七日めより　杉田村　江戸より凡そ十里余なり 東海道程ケ谷の駅より一里程東なる 本牧(ホンモク)の村 民家の園中又は畑中に多し この地は海浜に望み 房総の山々一望にして 遠く眺むれば 房総の絶景一程もなし 野梅乃株数 さかりなる頃は 野梅多くあつて実を飲むよし 東都の近辺にしてかゝる佳景はまた有がたし

○同三十日目　隅田川向島村梅やしき　梅の名を号く 寺中梅樹多し　蒲田村(カマタ)　大森の右の方へ入る 宿町より此所経るに道 ○雑司ヶ谷畑町 植木屋十助梅林

又同村清水の内山本 の園中にあるし　亀戸八幡宮 宮居園　増上寺飯倉天満宮 社地

○四谷大木町 梅林　○同三十二三日目より　亀戸梅屋敷臥龍梅(グワリヤウバイ)　天満宮より東へ三丁余 清香庵といふ 江戸第一の名木なり 白花にして香気甚し

も除梅樹多く文人墨客ここに集ふ

○同三十四日め　亀戸天満宮(テンマングウ)　清香庵より八少しきたなし　○同三十日め　谷中梅園 天神 目黒石古坂(イシコロ)

不動尊後ろ○名年より寒暖に随ひ遅速あれども大抵たる所は

○柳原堤(ツヽミ)の新柳も早春二月の一ツ景の武蔵志料に云ふ者

ら去し馬勃(バボツ)の向ふに柳原七百四十二本立ち春になれば青々として同書の編者山路明済子

若き頃(宝暦元年)其柳をかぞへしに凡そ二百八十四本ありしとぞ今ハ其数も減じたり

江戸歳事記巻之壹春之部上 終